

草の芽句会たより

NO,91
28,3,3

基準木蕾まだかたき雛の日
雛あられ甘酒で友の快気祝い

節子

散り残る梅花帽子にのせて来る
若人の足音軽き春の城

範子

境内に紙芝居立つ四温かな
五位鷺の影の動かず二月尽

文子

青々と汚れなき空春の城
雛の日の女ばかりや城上る

貞子

本丸に立てり城下は春の音
早春やハミング聞こゆ城の坂

純子

搦手にまわれれば梅林開きけり
雛あられ女ばかりの句会かな

禮子

春霞まといて今日の飯野山
掌にのせていただく雛あられ

剋子

稚児地藏寄り添ひ笑める寺ぬくし
軽やかな音の響きや菜を刻む

貞



出席者
投句者

大黒 吉崎 川原 森 氏家 馬場 小山
真鍋



今日は雛まつり。歳はとつてもなにやら心華やぐものである。♪灯りをつけましょぼんぼりに
♪ 園児のように歌いながら見返り坂を上る。空は青く晴れ遠くの山並みには春霞が。
二の丸跡の一本の桜がもう二つ三つ花を咲かせている。梅林へ続く石畳の坂を下る。枋の木御門
跡にはもう下萌えが。 城山ではいつもの春が始まるうとしていた。
部屋に戻ると甘酒や雛あられ、コーヒーにたくさんのお菓子。笑顔がはじける。「休まんでよか
ったー」思わず本音が。誰もが家事をやりくりし、痛む足をなだめつつの出席である。
好きなことだから続けられる。来月は漆林でのお花見（弁当付き）。乞うご期待！である。